

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成26年度 第4回
開催日時	平成26年12月16日（火曜日） 午後6時から8時まで
開催場所	田無庁舎 5階 503 会議室
出席者	出席：石崎委員長、小澤副委員長、野澤委員、鍵主委員、篠宮委員、洞澤委員、渡辺委員、入沢委員、尾関委員、小松委員、佐々木委員、鈴木委員 欠席：後藤委員、島委員、深田委員 事務局：古厩課長、日下部課長補佐兼係長、渡邊主査
議題	(1) 第3回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について (2) 西東京市第2次男女平等参画推進計画 実績5カ年総評価報告書について (3) 西東京市第3次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画の評価方法について (4) その他
会議資料の名称	「配布資料」 (1) 第3回男女平等参画推進委員会会議録（案） (2) 西東京市第2次男女平等参画推進計画実績5カ年総評価報告書 (3) 西東京市第3次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画の評価方法について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>委員長が遅れるため、副委員長の議事進行により委員会を進めた。</p> <p>○事務局：</p> <p>本委員会内では、正式名称が長いため、西東京市男女平等参画推進委員会を「委員会、」西東京市第2次男女平等参画推進計画を「第2次計画」、西東京市第3次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画を「第3次計画」と口頭では説明させて頂く旨の説明をした。</p> <p>事務局：</p> <p>配布資料の確認をした。</p>	

○事務局：

委員の半数以上が出席しているので委員会が成立している旨、傍聴人がいない旨の報告をした。

議題（1）第3回男女平等参画推進委員会会議録（案）の承認について

副委員長：

事務局より説明をお願いします。

○事務局：

事前に皆様にご確認いただいた資料と一点誤字がありましたが、内容に変更はありません。

副委員長：

承認いただけますか。

異議なく承認された。

議題（2）西東京市第2次男女平等参画推進計画 実績5カ年総評価報告書について

○事務局：

本日は30分程度グループワークを行った後、領域別評価について各グループの代表者より10分ずつ発表していただき、グループ間で意見交換をする旨の説明をした。

事務局：

資料2について説明した。

グループワーク

副委員長：

Aグループの発表をお願いします。

Aグループより資料2に基づき領域別評価1学びで身につける男女平等、2家庭生活を豊かにする男女平等について発表した。

○副委員長：

Aグループの発表について、ご意見やご質問はありますか。

○委員長：

男女別に名簿を作成すると、男女別に平均点を出したり、方向性を出したりするようになります。そのような評価を出すことにより、結果として男、女という単位で判断してしまうことにつながり、一人ひとりの個性を見失いがちになります。個性を重視するためには混合名簿を使用す

る方がメリットがあると思います。

委員：

保護者・保育士・教員等への研修は大変重要ですので、実施していただきたいと思います。

○委員：

子育てへの社会的支援の充実がおおむね A 評価ということですが、実感として、子育てサークルを立ち上げることは公民館などでも実施されていますが、支援の継続性がないと思います。サークルは継続していくことによりたくさんの人の居場所となると思うので、サークルが継続していくように支援を厚くしてほしいと思います。

○副委員長：

B グループの発表をお願いします。

B グループより資料 2 に基づき領域別評価 3 働く場で実践する男女平等、4 まちづくりをすすめる男女平等について発表した。

○副委員長：

まちづくりをすすめる男女平等の評価内訳のところにあります「一」はどのような評価ですか。

○事務局：

「一」の評価につきましては、審議会、委員会等への女性の積極的登用についての事業であります。以前あった審議会、委員会等について、目的などが達成されたりして、その年度にはなくなってしまったものについて、事業一覧から削除するのではなく、評価対象としないという意味で「一」になっています。

○副委員長：

B グループの発表について、ご意見やご質問はありますか。

○委員：

働く場では、ワーク・ライフ・バランスが大きなテーマであるが、評価はいかがですか。

○委員：

評価では高い評価をしていました。

○委員：

大きなテーマであるので、評価を書きいただけると良いと思います。

○委員：

わかりました。

○委員：

ワーク・ライフ・バランスの講演会を実施していると書いてあり、評価が A と出ていますが、内容的に充実したものが実施できているかどうかは、この項目だけではわかりません。実施状況だとか調査を検討する必要があると思います。

○副委員長：

C グループの発表をお願いします。

C グループより資料 2 に基づき領域別評価 5 人権を守る男女平等、6 計画を着実にすすめる推進体制について発表した。

○委員長：

人権を守る男女平等のところで、子どもの虐待に重きを置き過ぎていると思います。

○副委員長：

今後の予定はどうなりますか。

○事務局：

本日のグループワークや意見交換を経て、領域別評価や各課実績評価を修正されるようであれば、1月16日までにご提出をお願いします。

議題 (3) 西東京市第 3 次男女平等参画推進計画・西東京市配偶者暴力対策基本計画の評価方法について

事務局

資料 3 について説明した。

○副委員長：

レイアウトは参考レイアウトということによろしいですか。

○事務局：

そのとおりです。

○事務局：

委員会の皆様に行っていただく作業は、全体の評価である総評、第2次計画の評価では領域別評価にあたる基本目標別評価、重点課題別評価です。指標は数字を当てはめるだけですし、評点はアルファベットを数字に置き換えて点数化しただけですので、皆様が行う作業にはなりません。その他に、第2次計画では各事業の評価とコメントを付けていただいていたのですが、前回の事務局の提案では、各事業に対してコメントは付けていただきますが、評価は施策単位で付けていただきたいとご提案いたしました。

○事務局：

その時に、施策にもコメントを付けたほうが良いというご意見をいただきましたので、資料3の案2参考レイアウトにありますように、施策にも評価及びコメントを付けていただくようなレイアウトにしてあります。なお、施策の評価は事業評価のレイアウトと一緒にするとわかりにくくなるため、施策評価のみ事業評価の前にまとめて記載してあります。

○事務局：

本日、皆様にご議論いただきたいのは、前回ご意見がわかれた施策に対してもコメントを付けるかどうかの部分です。ご意見がわかれた理由は、今でも作業量が多いのに、さらに作業量を増やして対応できるのかどうかということだったので、全体の作業量を把握していただくために、資料3の業務一覧の表を作成いたしました。

○副委員長：

案1と案2の評価方法との違いは、施策に評価コメントを付けるかどうかですね。

○事務局：

そのとおりです。

○副委員長：

もう一つ、案2にある重点課題の三角はどのようなことですか。

○事務局：

案2にある重点課題の三角は、例えば、施策単位で評価コメントを作成されるようであれば、重点課題別のコメントは必要ないというご意見もあるかと思ひまして、三角にしてあります。これは、委員会の皆様に必要なかどうかをご審議いただければと思います。

○委員：

重点課題のコメントは必要ないと思います。

○副委員長：

施策評価についてコメントを付けるかどうかですね。

○事務局：

そのとおりです。

○委員：

分かりにくいので、もう一度ご説明いただけますか。

○事務局：

まず、第2次計画の評価は各事業に対して評価とコメントを付けていただいていたのですが、第3次計画では、各事業に評価を付けるのをやめて、各施策に評価を付けるように変更しては如何かというのが事務局案でした。

○委員：

その部分はわかります。そうしますと次に出てくるのは施策のコメントですよ。一覧では事業の評価理由が出てくるのでわかりづらくなっていると思います。

○副委員長：

施策にコメントを付けるかどうかですが、評価が付いているのに、コメントがないと評価の理由がわかりづらいかと思いますが、皆さんいかがですか。

○委員：

第2次計画の評価をしてみて、大きくまとめるのは難しいと感じました。同じカテゴリの中にA評価があったり、C評価があったりしますので、結局、コメントの中でひとつひとつについて書くようになると思います。ですから、重点課題についてコメントを書くことについては、事業のコメントをまとめた形になると思うので、なくても良いと思います。

○委員：

基本的な問題だと思います。計画を作成した目的は、行政がこの計画に沿って施策を推進していくというものだと思います。それを評価するものですから、市民サービスの実現には、どのように評価するのが一番良いのかを考えるべきであって、委員会の作業量が大変か大変でないかで判断するものではないと思います。

○委員：

それでは、重点課題の評価はあったほうが良いということですか。

○委員：

重点課題は、第3次計画の柱であると思うので、重点課題の評価はあったほうが良いと思います。

○委員：

作業量が多く負担になるという意見があったため一考しましたが、私もあったほうが読み易いと思います。

○委員：

市長答申する時など、問題点を絞って答申できるのであったほうが良いと思います。

○委員：

委員は、コメントを書くにあたって色々調べたりします。確かに、コメントを書くのは大変だと思いますが、評価をされていてそれがあまり活かされていないような気がしました。担当課にフィードバックして次年度の課題として活かしてもらえるような評価方法にしてもらいたいです。活かしていただけるようであれば、労力は惜しみませんのでコメントを書くことは賛成です。

○委員：

この評価は、委員会が各担当課の事業を確認するためだけのものではなく、担当課と委員会のコミュニケーションの場であり、知恵も出し、応援もするというものであると思います。

○委員：

評価をしていると、職員が事業実施に苦しんでいるのがわかる時がありますので、評価を通してコミュニケーションができると良いと思います。

○副委員長：

本日、決議をとったほうが良いですか。

○事務局：

次回の委員会でも大丈夫です。

○副委員長：

わかりました。

○委員：

評価をしたらコメントを付けるのは普通だと思いますし、評価だけだとわかりづらいと思います。

○事務局：

今のご意見を整理させていただきますと、担当課とキャッチボールになっていないと評価そのものの意味をなさないということですね。事業に対するコメントは今まで通りおこないます。評価を付けるのは担当課に付けてもらうようにするのが出発点でした。それに対して、委員会の評価も付けながらコメントも付けるということでしたが、キャッチボールのツールとしてとなると事業に付いた評価と施策に付いた評価がどの程度役に立つか見えづらいと思います。施策にもコメントを付けるとなると、基本目標もコメントして、重点課題もコメントして、全部にコメントするとなると、ポイントが見えづらくなると思います。そのため、保留させてください。

○副委員長：

わかりました。

○事務局：

見てほしいポイントがわかりやすいような評価にするべきだと思いますので、皆さんに評価及びコメントを付けていただきますが、総括している部分が多すぎるとポイントが見えづらくなりますので、その部分を整理して次回にご提案いたします。

○副委員長：

わかりました。それでは、次回の委員会でもう一度ご提案いただくことにします。

○副委員長：

最後に確認ですが、第2次計画の評価の最終締切りは1月16日（金曜日）になります。

○副委員長：

次回の開催は2月24日（火曜日）、午後6時から田無庁舎502会議室になります。